



武漢天河国際空港 ターミナル3  
Wuhan Tianhe International Airport Terminal 3

4ラインで構成されたチルトトレイソーター。計1,462のトレイが350を超えるシュートに手荷物を仕分ける。

チルトトレイソーターを中核とした手荷物搬送システムが稼働  
中国中部最大級の空港の高度化に貢献

武漢天河国際空港（中国・武漢市）はターミナル3を新設し、2017年8月に運用を開始しました。ターミナル3には最新の各種手荷物搬送システムやセキュリティーシステムを導入。またRFID手荷物タグを活用するなど、中国の空港では先進的な取り組みにも挑戦されています。

世界の航空旅客数が増加を続ける中、特に中国は著しい経済成長を背景に、ビジネスや旅行による航空需要が拡大しています。2017年には中国の航空旅客数は前年比12.9%増の延べ11億4,700万人に上りました。2020年代半ばには米国を抜き世界最大となる予想です。

武漢天河国際空港（以下、武漢空港）のターミナル3は、159億元（当時のレートで約2,565億円）をかけて建設され、2017年8月に稼働しました。これにより、武漢空港は中国の中部エリアで最大級の国際空港となりました。従来はターミナル1が国際線、ターミナル2が国内

線でしたが、現在はすべての運航をターミナル3が担っています。

今回の手荷物搬送システムは、空港向けシステム事業を担う当社グループ会社の一つであるDaifuku Logan Ltd.と中国の現地資本との合弁会社が構築したものです。

システムの中核となるDaifuku Logan社のチルトトレイソーターは、仕分けによる荷傷みが最小限になるよう設計され、機高が低いため高さ制限がある場所への導入が可能なのが特長です。手荷物の仕分けだけでなく、空港内のエリア間搬送としても活用されています。加えてベルトコンベヤ式の手

荷物一時保管システムや空ケースの返却コンベヤなどの各種自動化システム、最大5段階のセキュリティーシステムなども導入しています。

RFID手荷物タグにより  
荷物の読み取り精度を高める

武漢空港は、中国の空港としては先進的なRFID手荷物タグによる手荷物の識別や追跡を行っています。一般的なバーコード式のタグに比べて、読み取り精度が高いRFIDを使用することで、識別できなかった荷物を人手で仕分けする作業を減らすとともに、荷物の正確な追跡が可能になりました。

[手荷物搬送フロー]

Departure

1 チェックインカウンター



スタッフは座ったままコンベヤ上の手荷물에 タグを取り付けできる。

2 ベルトコンベヤ



ターミナルに張り巡らされた手荷物搬送システムの総延長は16kmに及ぶ。

3 RFIDリーダー



空港の各所に設置されたRFIDリーダーで手荷物を追跡する。

6 チルトトレイソーター



計30カ所ある投入口から連結されたトレイに手荷物を載せて目的地に搬送する。

5 セキュリティーシステム



X線検査などによる判定結果に応じて最大5段階での検査を行う。

4 パーチカルソーティングユニット



手荷物をスピーディーに上下2方向に仕分ける垂直仕分け装置。

7 アーリーバゲージライン



ベルトコンベヤを用いた手荷物の一時保管用ストレージライン。

8 メイクアップエリア



手荷物タグを読み取った際に、行き先が正しいとシュート部が緑色に点灯する。

コントロールルーム



手荷物の追跡や、搬送設備の状況をリアルタイムに確認、制御できる。

Arrival

1 ブレークダウンエリア



到着した手荷物は人手でコンベヤに投入され、バゲージクレームエリアに搬送される。

2 バゲージクレームエリア



搭乗客はバゲージクレームエリア（計18カ所）で預け入れ手荷物を受け取る。

ターミナル3 概要

所在地：湖北省武漢市黄陂区  
建築面積：約22万㎡  
旅客取扱能力：3,500万人／年  
稼働：2017年8月

